

日刊 動労千葉

84.9.13 No. 1742

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

大会速報 No.1

2代議員、傍聴者200余名結集し 第九回定期大会を開会

動労千葉第九回定期大会は、9月12日、10時より鴨川市・鴨川館に於て開催された。第一日目は、中野執行委員長のあいさつ、各界来賓からのあいさつ、この一年間の開いの経過報告をはじめ、議事次第に沿っての諸提案がなされ、総括討論・答弁がなされた。

大会は、昨年第八回大会で確認した「三里塚と国鉄を基軸に反動中曽根内閣と対決する労働運動」路線のもと、119レーガン来日阻止闘争、325三里塚「5割動員」の実現、「592ダイ改」阻止、「動乗勤改悪」阻止の闘いを運動保安確立の闘いと結合して全力で闘いぬいてきたこの一年間の「経過」について、確信あふれる討論を経たのち、満場の圧倒的拍手をもって承認した。



「反撃の突破口を大きくひらく大会の成功を」(議長団あいさつ)

笹生(館山支部)、田中(佐倉支部)、2代議員を議長団に選出

大会は、会場をうめ尽す代議員・傍聴者200余名の結集をもって、10時ちようどに始まった。

山口副委員長が「開会」を宣言することともに、重見資格審査委員長の「審査発表」をうけて「大会成立宣言」が発せられた。

館山支部の笹生代議員と佐倉支部の田中代議員が議長団に選出され、代表して笹生議長から大会成功にむけた呼びかけが行われた。

「大会書記局役員指名」「スローガン提起」につづいて、中野委員長があいさつにたった。

動労千葉の真価を今こそ発揮しよう

中野委員長あいさつ

中野委員長は、「中曽根の臨調一改革の目玉としての国鉄攻撃の激化は、国鉄労働者と家族だけでなく日本の将来を決する重大な問題として決戦局面を迎えており、今こそ怒りの反撃に決起しなければならぬ。中曽根内閣・国鉄当局の攻撃は、国家財政・国家体制そのものの危機的破綻を『国鉄』問題にすりかえ、国鉄労働運動を解体し労働者・人民の犠牲の上に軍事大国化し侵略戦争体制づくりを狙った凶暴な攻撃である。その最大最悪の元凶は、動労『本部』革マルが完全に敵の手先になり切って、骨身を削って働こう」と労資一体の経営参加の裏切りの道に転落していったこと、そればかりか、今聞あうというのは批発者だ、と叫んで、国労や動労千葉の闘いに背後から攻撃を加えていることである。動労『本部』革マルの粉碎・一掃なしに国鉄労働運動の未来はない。…(以下続く)